GenEdit 1.0 オペレーション･マニュアル

はじめに：

GenEdit Version1.0 は DigiTech GNX1 / GNX2 / Genesys3 を PC 上からリモート･コントロールし、直観的なエディット、ユーザー･プリセットのライブラリー機能、セットアップ状態のバックアップ機能を提供するフリー･ソフトウェアです。

本ソフトウェアを利用して GNX1 、GNX2 、Genesys3 のシステムをアップロードするためには、Windows95/98/ME/2000/NT が動作する PC/AT 互換機の他に､MIDI インターフェイスが必要となります。

GenEdit 起動の準備：

GenEdit を起動する前に、PC/MIDI インターフェイス /GNX1, GNX2, Genesys3 を正しくセットアップしてください。

PC および MIDI インターフェイスはそれぞれのマニュアルを参照し、正しくセットアップし、可能であれば動作確認を行ってください。

MIDI インターフェイスの MIDI アウトと GNX1, GNX2, Genesys3（以後、本体と記載）の MIDI イン、MIDI インターフェイスの MIDI インと本体の MIDI アウトを直接接続します。MIDI インターフェイスと本体は必ず直接接続してください。他の MIDI 機器が挿入されている場合正常に動作しません。

GenEdit の起動：

“スタートアップ→プログラム→ DigiTech → GenEdit 1.0” を実行します。

正常に機能している場合、右のダイアログが表示され、本体との同期を行った後、**図 1** の画面になります。

もしも右のようなダイアログが表示された場合には、MIDI 環境に問題があります。MIDI の接続を確認してください。

もしも右のようなダイアログが表示された場合には本体のバージョンが低く、GenEdit の機能をフルに利用することができません。ファームウェアのアップデートを行ってください。

ライブラリー･ウィンドウ：

GenEdit が正常に起動し、本体との同期に成功すると右の画面になります。

表示されるウィンドウは、ライブラリー･ウィンドウと呼ばれ、本体にメモリーされているプリセット･ネームを表示します。

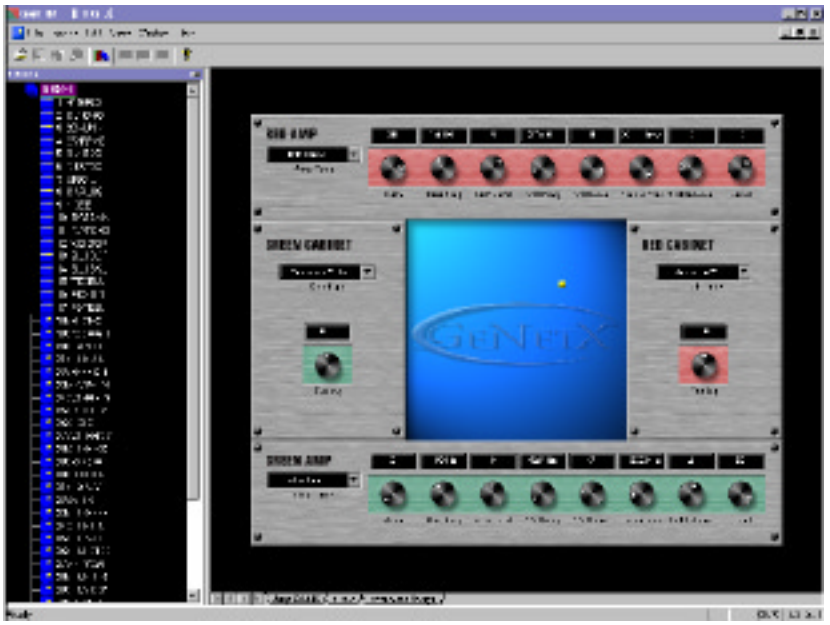
“＋” をクリックするか、製品名のエリアをダブル･クリックすることで、すべてのプリセット･ネームを表示させることができます。

図 1

ライブラリー･ウィンドウでは、プリセットの呼び出しとエディット･ウィンドウの呼び出しができます。

任意のプリセット･ネームをクリックすると、本体はそのプリセットを呼び出します。

任意のプリセット･ネームをダブル･クリックすると、そのプリセットのアンプ･エディット･ウィンドウを呼び出します。



アンプ･エディット･ウィンドウ：

ライブラリー･ウィンドウの任意のプリセット･ネームをダブル･クリックすると、そのプリセットのアンプ･エディット･ウィンドウが表示されます。この時、ツールバーの アイコンをクリックするとライブラリー･ウィンドウを非表示にすることができます。

アンプ･エディット･ウィンドウでは、それぞれのアンプ･チャンネルのアンプ･タイプおよびキャビネット･タイプの選択、アンプ･セッティング（ゲイン、パラメトリック･イコライザー、レベル）、キャビネット･チューニング、そしてアンプ･ワープがひとつの画面でエディットできます。この時、ツールバーの アイコンをクリックすることでアンプ･チャンネルを切り替えることができます。

アンプ･タイプとキャビネット･タイプは、ポップアップ･メニューをクリックすることで現れるリストから任意のタイプをクリックすることで選択できます。その他のパラメーターは、専用のノブをマウスで動かすか、パラメーター値ボックスへダイレクトに数値を入力することでエディットできます。

アンプ･ワープはディスプレイ中央の黄色いポイントをマウスでクリックしたまま移動させることによって決定します。本体ではアンプとキャビネットを同比率のままでしか制御できなかったのに対し、GenEdit では、４つの要素を自由な比率で設定できます。

GenEdit での操作は瞬時に本体のセッティングを変更します。従って、GenEdit での変更はすぐにサウンドの変化となってモニターすることができます。また、本体での操作も GenEdit のエディット･ウィンドウに反映されます。

エフェクツ･エディット･ウィンドウ：

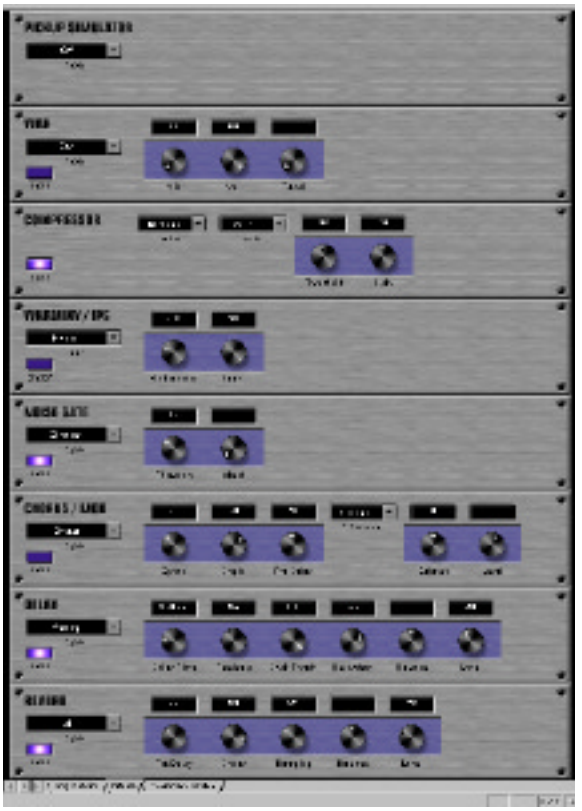
エディット･ウィンドウの下部のタブ（Amp GeNetX / Effects / Expression Assign）から **Effects** タブをクリックすることで、エディット･ウィンドウがエフェクツ･エディット･ウィンドウに切り替わります。

エフェクツ･エディット･ウィンドウでは、本体のエフェクト･セッティングの全てが行えます（本体だけではエディットできないパラメーターも存在します）。

アンプ･エディット同様、エフェクト･タイプ等の一覧からの選択パラメーターはポップアップ･メニューをクリックすることによって、数値パラメーターはノブを動かすか数値ボックスに数値を入力することによってエディットを行います。

エフェクトのオン / オフは をクリックすることで切り替えます。 がオンの状態です。

Whammy/IPS, NoiseGate, Chorus/Mod モジュールでは、選択したタイプに応じてユーザー･インターフェイスが変化します。



エクスプレッション・アサイン・エディット・ウィンドウ：

エディット･ウィンドウの下部のタブ（Amp GeNetX / Effects / Expression Assign）から **Expression Assign** タブをクリックすることで、エディット･ウィンドウがエクスプレッション･アサイン･エディット･ウィンドウに切り替わります。

エクスプレッション･アサイン･エディット･ウィンドウでは本体のエクスプレッション･ペダルにアサインする機能の設定、および内部 LFO によるパラメーターの自動周期を設定します。

アンプ･エディット同様、エフェクト･タイプ等の一覧からの選択パラメーターはポップアップ･メニューをクリックすることによって、数値パラメーターはノブを動かすか数値ボックスに数値を入力することによってエディットを行います。

エディットしたセッティングの保存：

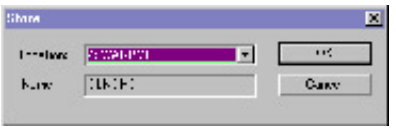
GenEdit では修正したセッティングの保存方法に 2 つの選択肢があります。

1 つは従来通り、本体のメモリーに保存する方法。もう 1 つはファイルとして PC に保存する方法です。

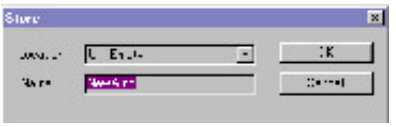
本体にセッティングを上書きする手順：

GenEdit 上の現在のプリセット･セッティングを本体のメモリーに上書き保存するには、ツールバーの をクリックするか、**File → Store to Device** を実行します。プリセット･セッティングは現在本体に呼び出されているプリセット･ナンバーに上書きされます。

他のプリセット･ナンバーに保存したい場合には、**File → Store to Device As** を実行します。ロケーション選択ダイアログが表示されるので、保存したいプリセット･ナンバーをポップアップ･メニューから選択し、Name ボックスへ名称をつけて **OK** をクリックします。



現在のアンプ･セッティングをハイパーアンプとして本体のメモリーに登録する場合には、ツールバーの をクリックするか、**File → Amp Save** を実行します。ロケーション選択ダイアログが表示されるので、登録したいハイパーアンプ･ナンバーをポップアップ･メニューから選択し、Name ボックスへ名称をつけて **OK** をクリックします。



ファイルにセッティングを書き出す手順：

GenEdit 上の現在のプリセット･セッティングをファイルとして PC に新規保存するには、**File → Save As** を実行します。「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。任意の名称とディレクトリを指定して「保存」をクリックします。保存したセッティングを GenEdit にロードするには **File → Open** を実行します。

ファイルからロードしたセッティングに修正を加え、再び同じファイルへ上書き保存する場合には、 をクリックするか、**File → Save** を実行します。

現在のアンプ･セッティングをハイパーアンプとして PC に新規保存するには、**File → Export → Amp/Cabinet** を実行します（キャビネット･セッティングだけを単独で保存するには **Cabinet Only** を選択）。「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。任意の名称とディレクトリを指定して「保存」をクリックします。保存したセッティングを GenEdit にロードするには **File → Export → Amp/Cabinet** を実行します（キャビネット･セッティングだけを単独でロードするには **Cabinet Only** を選択）。